

評価シート(案)

序	ごみの分別を再分化し徹底する「ごみの行方物語」の粗筋を描く
	次の各ステップを着実に進めるため、「適正処理」のペースを構築 ■分別後のごみ（資源）の行方を探検し、ごみの変容を知る その１：発生抑制できるごみはどれか（→物語の「起」へ） その２：再使用できるごみはどれか（→物語の「承」へ） その３：再利用（資源化、エネルギー化）できるごみはどれか（→物語の「転」へ） その４：焼却・埋め立て止む無しのごみはどれか

起	ごみを発生を抑制し「物語の入り口」に入る
	■レジ袋削減・脱過剰包装運動を開始・展開する ・売り手と買い手の相互対話による新たなスタイルの確立 ■日常生活でのごみ減量化を推進する ・現状を知る ・ごみ減量化対策のアイデアを出し合い、実践につなげる ■ごみをごみにしないためのシステムの活用 ・世代間の「おさがり」を社会的な「おさがり」文化に拡大する

承	暮らしの道具に愛着を育てる再使用で、「物語」は佳境に入る
	■こだわりと愛着により、暮らしの逸品を育てる生活様式を実践する ・修理しながら愛着をもって同じ物を大切に使い続ける生活を楽しむ ・物を大切にすることを育む

転	モノの姿が変身する再利用（リサイクル）で、「物語」は大きく転換する
	■持続可能なリサイクルシステムの構築 1歩 ・拠点回収品目の拡大検討 ・集団資源回収ルートの拡大活用検討 ・公共施設、店舗等での資源回収の拡大 ■リサイクル推進による地域活性化への取組 1歩 ・リサイクル製品等の積極的活用 ・バイオマスをはじめとした未利用資源の利活用に向けた検討 ・リサイクル事業の創出・誘致

行政としての役割	これまでの取組及び今後の実施予定の取組【斜め字】	左の説明コメント	評価 (コメントは特に指摘のあった点について記載)
○適正処理に向けた啓発、イベント等の開催 ・回収ごみの組成内容の情報公開 ↓ ↓処理過程に関する情報提供 ↓適正なごみ処理に向けての課題抽出 ●ごみ処理のあり方を検討	・リサイクル推進員の委嘱を通じての町内会への適正処理推進への協力要請(H15～) ・「たきかわごみ処理読本」の制作、公表(H16) ・市役所ロビーでの不法投棄防止啓発展示(H22) ・飛行活動時における不法投棄等の発見・通報に関する4者(北海道、警察署、市、スカイスポーツ振興協会)協定の締結(H22～) ・小中学校等へのごみ処理に関する出前講座の実施(H23～) ・ごみ組成調査の実施及び結果公表(H23) ・廃棄物減量等推進審議会の開催(H23) ・広報たきかわに特集「ごみにするその前に」を掲載(H23/9月) ・リサイクル推進員を対象とした研修会・意見交換会等の実施(H25～)	廃棄物減量等推進審議会の提言を受けて、今後、適正処理の確保に向けてごみ処理のあり方を引き続き検討してい。また、特にリサイクル推進員に対する研修や学校での出前授業等を拡充していくなかで、適正処理に関する普及啓発をさらに強化していく。	B 現行ごみ処理制度開始から10年が経過することから、改めて住民にごみ処理の現状を知ってもらうなどのさらなる取組が必要。

・市民や事業者との連携により実態把握 ↓相互の意見調整等	・滝川消費者協会及びスーパー事業者とのレジ袋利用抑制推進に関する協定締結(H20) ・そらぶちキッズキャンプオリジナルエコバッグの制作・配付(H20) ・レジ袋削減効果調査(H21、H22) ・過剰包装に係るアンケート調査(H23) ・販売事業者等との意見交換会(H24)	レジ袋削減の意識(→マイバッグ等の持参)は市民間に概ね定着していることから、今後はその他の買物におけるごみ減量化方策について、消費者団体や事業者等の意見を聞きながら、方策を検討してい。	C 幅広い意見を採り入れながら、効果的な施策を期待。
---------------------------------	--	--	-----------------------------------

・ごみ排出に関する情報提供と対策の提示 ↓ごみ排出量や組成等の情報提供 ↓関係者等の意見交換による具体的方策の検討	・廃棄物減量等推進審議会の開催(H23) ・ごみ組成調査の実施及び結果公表(H23) ・販売事業者等との意見交換会(H24)	ごみ排出量の目標の達成状況を踏まえ、さらなる減量化(資源化も含め)を推進するため、関係者等と意見交換を行い、資源としての回収品目の増についても検討する。	C 組成調査の結果を生かし、減量化の余地を再点検すべき。
---	--	--	-------------------------------------

・フリマ開催情報等の提供などの支援 ↓情報交流の支援	・不用品データバンクの活用 ・リサイクルフェアの開催(H18以前～) ・フリーマーケット情報交流事業(H18～) ・不要カレンダー等回収及び配付事業 ・リサイクルショップ情報の集約(H24～)	フリーマーケットの情報提供に努めてきたが、今後はリサイクルショップの活用が効果的と思われることから、市内関係事業者等に関する情報提供などの支援策を講じていく。	B ごみの減量化には有効な方策の一つであるので、さらなる取組を期待。
-------------------------------	--	---	---

・リペアビジネスの創出拡大支援 ↓買換・修理の価格比較などの現状調査 ↓修理屋さん情報の集積・提供などの支援	・現状等調査、方策検討(H24～)	リペア(修繕)に関する現状等についての調査を行った上で、今後、方策を検討してい。	D 普及の可能性について、まずは現状把握が必要。
--	-------------------	--	---------------------------------

・リサイクルシステムの構築 ↓情報の周知と概要に関する情報提供 ↓排出者と処理事業者の接点としての調整 ↓回収品目、箇所等のPR支援	・集団資源回収奨励金の交付(H18以前～) ・古着の回収(H18以前～) ・廃食油の回収(H19～) ・古紙の定期収集(H22～) ・小型家電の拠点回収(H24～) ・古紙分類範囲の拡大方策検討(H24～)	現行の個別リサイクルシステムの維持・拡大とともに、再生事業者との連携により、新たに小型家電の回収体制を構築を検討する。	B 減量化及びリサイクル率の向上を図る観点から、分別収集コストとの合理性を大きく失わない範囲で推進していくことを期待。
---	--	---	--

・リサイクル推進に向けた普及支援 ↓リサイクル製品の情報提供、率先導入 ↓率先的導入、実用性等の実証PR支援 ↓地域関係者の意見調整等 ↓リサイクル事業創出・誘致への支援	・市(役所)としてのグリーン購入の推進に向けた検討(H24～) ・地域企業、関係機関等との環境関連事業推進検討研究会の立ち上げ(H25)	国や道の目標に基づき、滝川市役所として庁内関係所属におけるグリーン購入に向けた検討を開始するとともに、地域経済の活性化に結びつくような取組に努める。	D 環境と経済の両立の観点から、行政としてできるところからアクションを起こすとともに、広くア
---	---	--	---

【実施状況欄】

A: 十分な取組が行われている B: 取組が行われているものの、今後の推進が望まれる C: 取組が行われているが、今後、方向性を変えるなど事業の再検討が必要 D: 取組が進んでおらず、検討が必要